

# 自分でできるように手伝ってください

平島 淳子

つき組の子どもたちは、段々と自分でできるようになりたいと主張が始まっています。

やりたい！と思った時が始め時です。自我の芽生え、自立の始まりです。

その前向きな欲求に応える為に、つき組ではちょっとしたお手伝いのポイントがあります。

## 着脱 〈上の服〉

上着を脱ぐ時は、袖口を大人が持ってあげると自分で腕を抜くことができます。

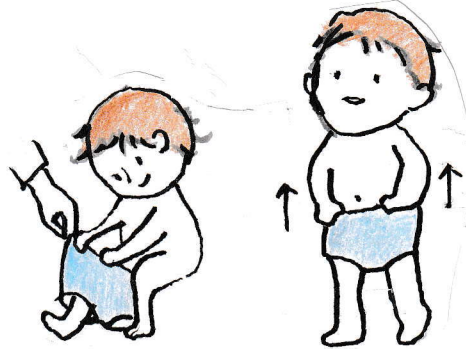


## 〈パンツ〉

- ①低い椅子や台に腰掛ける
- ②パンツの穴に足を通すのは「子ども」

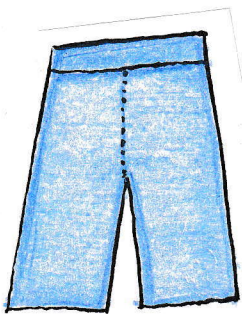
(大人の手はパンツの上をそっと持つ)

- ③足が通ったら立ってパンツを自分で引き上げる。



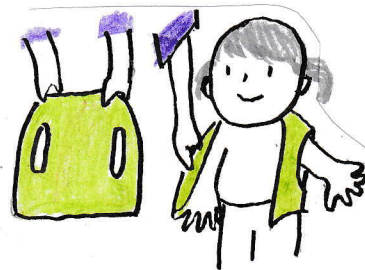
(お尻は難しいので<sup>大人が</sup>そっと引き上げをすることもあります)

## 〈ズボン〉



子どもが自分で履き易いのは、可能であればストレート型がお勧めです。

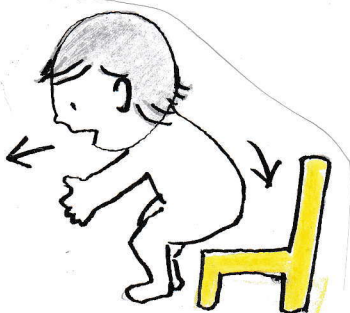
## 〈ベスト〉



- ①大人の手は、子どもが袖の穴を見つけて自分で通すまでベストを持っている。
- ②子どもは、片方の腕が通ったらもう片方の穴を探して腕を通す。

## 座る 〈椅子〉 自分の筋力で！

高さが子どもに合った椅子ならば



- ①自分で両手で椅子を引く
- ②体のバランスを自分で調節しながら腰かける。

## 〈オマル〉にまたがる

- ①持ち手をしっかり掴むように伝える
- ②掴んだら片足に重心をかけて
- ③反対の足をオマルの向こうに踏み出す

